臨地実習の目的・目標

１．目　的

看護の対象である人々を総合的に理解し、様々な健康レベルの人々に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。

２．目　標

１）看護の対象である人々を尊重し、信頼関係を築くことができる。
２）多様な価値観を持ち、生活者としての人々を理解することができる。
３）様々な健康状態にある人々に対し、科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践できる。
４）地域の多様な場における看護の役割と機能を理解し、チーム医療における多職種との協働ができる。
５）看護専門職者としての倫理観を養うことができる。
６）医療人として成長できるように看護を探求することができる。

基礎看護学実習Ⅰ　【１単位　４５時間】

〔 目　的 〕

対象の様々な健康状態と療養生活について理解し、その人らしい日常生活を送るための看護活動の基礎的能力を養う。

〔 目　標 〕

１．看護実践の場を理解できる。
２．看護の対象を理解できる。
３．基本的な看護援助技術が実施できる。
４．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

〔 行動目標・内容 〕

行　動　目　標	内　　容
１．看護実践の場を理解できる。	
１）病院の特徴について記述できる。	（１）　病院の理念 （２）　看護部の理念 （３）看護基準 （４）安全管理 （５）病院の機能
２）病院で従事する職種と看護師の役割について記述できる。	（１）職種：診療部門・看護部門・検査部門 事務部門など （２）看護師の役割
３）対象の療養環境を記述できる。	（１）病棟、病室、病床の特徴 （２）プライバシー、換気と臭気、室温、湿度、 騒音、採光 （３）病棟の月間・週間・日課
２．看護の対象を理解できる。	
１）対象とコミュニケーションがとれる。	（１）看護学生として適切な言葉使いと表現の工夫 （２）適切なコミュニケーション手段の選択 （３）対象の話の傾聴 （４）対象への関心 （５）接近的行動 （６）アサーティブ行動 （７）学生役割を理解した関係構築
２）対象の状態が観察でき記述できる。	（１）対象にあった観察項目 （２）入院前後の変化 （３）フィジカルイグザミネーションの実施 （４）症状・生体機能管理技術の実施

3）対象の情報を収集し整理できる。	（1）基礎情報 （2）治療経過 （3）ゴードン機能的健康パターンに基づいて整理
3．基本的な看護援助技術が実施できる。 1）援助計画が立案できる。	（1）本日の実習目標 （2）行動計画の立案 （3）援助の必要性の理解 （4）本日の援助計画の立案
2）必要物品の準備、片付けができる。	（1）必要物品の準備 （2）正しい取り扱い （3）後片付け
3）対象にとって安全・安楽に看護援助が実施できる。	（1）原理原則に則った正確な技術 （2）対象の自立度 （3）安全確保 （4）感染予防 （5）苦痛緩和・安楽確保
4）実施中の対象の反応に気づきながら実施できる。	（1）適切な声かけ （2）説明と同意 （3）反応の把握 （4）反応にあわせた援助
5）実施した看護援助を評価できる。	（1）実施中・実施後の対象の反応を把握 （2）対象の反応から援助後に看護援助の効果を評価 （3）学生自身の援助技術の振り返り
6）実践した内容を記述できる。	（1）事実に基づいた正確な記録 （2）専門用語の活用 （3）プライバシーの保護 「看護基本技術の学習項目」 コミュニケーション、感染防止の技術、 安全確保の技術、ヘルスアセスメント、 環境整備技術、食事援助技術、排泄援助技術、 活動・休息援助技術、苦痛の緩和・安楽確保の技術、 清潔・衣生活援助の技術
4．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。 1）主体的に取り組むことができる。	（1）計画的な取り組み （2）提出物の期限の厳守 （3）事前学習への前向きな取り組み （4）追加学習・文献の活用 （5）疑問点への積極的な探究 （6）主体的な実習計画の立案 （7）学習記録内容の修正・追加

2）相手を尊重した態度がとれる。	（1）礼儀正しい言葉遣い （2）学生らしい身だしなみ （3）情緒の安定性 （4）良好な人間関係 （5）グループダイナミクスの活用
3）責任を持って行動ができる。	（1）報告・連絡・相談 （2）施設との約束の順守 （3）守秘義務が遵守 （4）実習の留意事項の遵守 （5）実習記録の取り扱い遵守 （6）事故の回避と対応 （7）時間厳守 （8）出欠席の報告義務
4）遅刻・欠席・早退しない。	（1）無遅刻・無欠席 （2）自己の健康管理 （3）早期受診と報告の義務 （4）学習環境の調整 （5）感染予防対策の遵守
5）　実習を振り返り、看護に対する思いや考えを記述できる。	（1）自己の振り返り （2）自己の看護観の言語化 （3）今後の課題の明確化

〔日程スケジュール〕

11/７（火）			12/１（金）	
３・４限 実習ガイダンス （１H）			直前オリエンテーション 演習使用後の片付け （２H）	
12/４（月）	12/５（火）	12/６（水）	12/７（木）	12/８（金）
９：00 教室集合 10：00～ 看護部長講話 (センター講堂) 15：00～ オリエンテーション　（８H）	８：30 病棟実習 15：00～ カンファレンス （８H）	８：30 病棟実習 15：00～ カンファレンス （８H）	８：30 病棟実習 15：00～ カンファレンス （８H）	８：30 病棟実習 15：00～ カンファレンス （８H）
12/11（月）				
９：00 教室集合 反省会 （２H）				

〔　病棟実習内容　〕

	主な内容	備考
１日目 12/５ (火)	（１）病棟の特徴の理解 （２）受け持ち患者の理解 ①カルテからの情報収集 ②コミュニケーション ③状況により看護援助の見学	15：00　　カンファレンス テーマ 「実習初日を終えての気づき、感想」
２日目 12/６ (水)	（１）受け持ち患者の理解 ①コミュニケーション ②観察の実施 ③環境整備の実施 ④看護援助の見学 受け持ち患者に必要な日常生活援助の見学	15：00　　カンファレンス テーマ 「受け持ち患者の紹介、必要な日常生活援助」
３日目 12/７ (木)	（１）患者に必要な援助を安全・安楽、自立、個別性を考えて実施 ①コミュニケーション ②観察の実施 ③環境整備の実施 ④日常生活援助の実施 （２）実習内容を具体的に記述し、実施した援助を患者の反応から評価 （３）援助結果・評価を報告	15：00　　カンファレンス テーマ 「実施した日常生活援助の振り返り」
４日目 12/８ (金)	（１）患者に必要な援助を安全・安楽、自立、個別性を考えて実施 （２）実習内容を具体的に記述し、援助結果を患者の反応と科学的根拠から評価 （３）看護を振り返り、自己の課題の明確化	15：00 カンファレンス テーマ 「基礎看護学実習Ｉを終えての学びと課題」

〔　実習場所　〕

東京医科大学八王子医療センター

実習病棟（7 病棟）: B2 西病棟・B2 東病棟・B3 東病棟・B4 西病棟・B4 東病棟・D3 病棟・D4 病棟

〔　事前課題　〕

1．実習病棟の事前学習（別紙参照）

2．基礎看護学

1）看護学概論を復習する。

（1）看護とは

（2）療養環境とは

（3）看護の対象とは

2）基礎看護技術の知識の確認、技術の練習

コミュニケーション、感染防止の技術、安全確保の技術、ヘルスアセスメント、環境整備技術、食事援助技術、排泄援助技術、活動・休息援助技術、苦痛の緩和・安楽確保の技術、清潔・衣生活援助の技術

〔　実習記録　〕

1．臨地実習学習カード

2．看護部長講話・病院オリエンテーション記録

3．フェイスシート（1 号紙ー①）

4．データベース（1 号紙ー②）

5．アセスメントシート（2 号紙ー①～③）

6．本日の実習記録（6 号紙ー①・②）

7．レポート「基礎看護学実習Ⅰを終えての学びと自己の課題」

400～1200 字以内（末尾に文字数を入れる）

8．行動計画調整表（行動計画調整表Ⓐ）

9．看護技術経験録

10．評価表

〔　実習評価　〕

基礎看護学実習Ⅰ評価基準に基づいて評価

基礎看護学実習　Ⅱ　　【２単位　９０時間】

〔　目 的　〕

健康障害をもつ対象を理解し、看護過程を展開し基礎的能力を養う。

〔 目 標 〕

1. 対象と援助的関係を形成することができる。
2. 対象の健康問題を解決するための看護過程を展開し必要な援助が実施できる。
3. 看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

〔　行動目標・内容　〕

行　動　目　標	内　　容
1. 対象と援助的関係を形成することができる。	
1)対象との信頼関係形成に必要なコミュニケーションがとれる。	(1)対象の意思の尊重 (2)接近的コミュニケーション技法の活用
2)よりよい支援に向けたコミュニケーションが図れる。	(1)双方的な相互作用 (2)効果的コミュニケーション
3)対象の意思決定を支援する。	(1)目的の共有 (2)説明の同意
2. 対象の状態に応じた看護過程を展開し、必要な援助が実施できる。	
1)データベースを使用して看護に必要な情報を収集できる。	(1)ゴードンの機能的健康パターンに基づく情報の収集 (2)コミュニケーション (3)フィジカルイグザミネーション (4)疾病に関連した症状、状態の観察 (5)疾病の原因・症状・病態生理・治療・検査 、看護 (6)発達段階における身体的・精神的・社会的特徴
2)収集した情報が整理できる。	(1)ゴードンの機能的健康パターンに基づく情報の整理
3)収集した情報を分析・解釈し、看護問題が抽出できる。	(1)情報の分析、解釈 (2)充足状態 (3)未充足の原因・誘因
4)情報と関連付けて、対象を統合的に捉え、看護上の問題を明確にできる。	(1)関連図 を使用した情報の関連性 (2)問題の明確化

5）問題解決に向けた目標設定ができる。	（1）長期、短期目標の設定 （2）看護診断を PES 方式で記述する （3）優先順位の決定
6）目標を達成するための計画立案ができる。	（1）対象の状況を捉え、今後を見据えた計画立案 （2）具体性のある援助計画（5W1H） （3）根拠の明確化 （4）OT・CP・EP に分類して計画立案
7）立案した計画に基づいて、対象の状況に応じた援助が実施できる。	（1）実施前の計画の見直し （2）臨床判断し実施 （3）計画に沿った根拠
8）対象の個別性をふまえた援助が実施できる。	（1）援助方法 （2）自立度 （3）生活習慣
9）対象の安全・安楽をふまえた援助が実施できる。	（1）安全の配慮 （2）安楽を考慮 （3）プライバシーの保護
10） 看護計画を評価できる。	（1）看護計画の評価 （2）短期目標の評価
11）実践した看護を、必要に応じて追加、修正できる。	（1）援助の見直し （2）援助の追加 （3）援助の修正 （4）目標の修正 （5）計画の追加・修正
12）実践した内容を記録できる。	（1）事実に基づいた正確な記録 （2）専門用語の活用 （3）対象の反応
3.看護専門職の一員として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる	
1）主体的に取り組むことができる。	（1）計画的な取り組み （2）提出物の期限 （3）事前学習への前向きに取り組み （4）追加学習・文献の文献 （5）疑問点の探求 （6）積極的な探求 （7）主体的な学習計画の立案 （8）学習記録内容の修正・追加
2）相手を尊重した態度がとれる。	（1）礼儀正しい言葉遣い

	(2)学生らしい身だしなみ (3)情緒の安定性 (4)アサーティブな表現 (5)グループダイナミクスの活用
3)責任をもって行動ができる。	(1)報告・連絡・相談 (2)施設との約束の遵守 (3)守秘義務の遵守 (4)実習の留意事項の遵守 (5)実習記録の取り扱い遵守 (6)事故の回避と対応 (7)時間厳守 (8)出欠席の報告義務
4)遅刻・欠席・早退をしない。	(1)無遅刻・無欠席 (2)自己の健康管理 (3)早期受診と報告の義務 (4)学習環境の調整 (5)感染予防対策の遵守
5)実習を振り返り、看護に対する思いや考えを記述できる。	(1)自己の振り返り (2)自己の看護観の言語化 (3)今後の課題の明確化

〔 スケジュール 〕

	月	火	水	木	金
1週目		直前オリエンテーション	病棟	病棟	病棟
2週目	病棟	病棟	学内実習	病棟	病棟
3週目	病棟	病棟	病棟		

〔　事前学習　〕

1　既習の看護学

・病棟毎の事前学習（別紙参照）

・看護過程

・基礎看護技術

日常生活の援助技術、診療の補助技術　全般

2　薬理学・疾病論等

3　その他

・担当教員より提示されたもの

〔　実習記録　〕

1. 臨地実習学習カード
2. 看護手順用紙
3. 受け持ち患者記録

1）　情報（1号紙）

2）　情報の解釈・分析（2号紙）

3）　病態関連図（3号紙）

4）　問題リスト（4号紙）/ 考えられる問題・問題の統合

5）　看護計画立案・評価（5号紙）

6）　行動計画表（6号紙）

7）　評価表

8）　技術経験録

9）「基礎看護学実習Ⅱ」を終えてのレポート（表紙をつけ 800～1,200 字）

＊書き方は教育要項参照

〔 実習評価 〕

1. 出席時間・実習態度・実習内容・記録物・記録提出期限などを考慮して、所定の評価表に基づいて行う。

地域・在宅看護論実習Ⅰ　【２単位　90 時間】

〔　目　的　〕

地域・在宅で生活する人々の保健、医療、福祉について理解し、自立支援できる基礎的能力を養う。

〔　目　標　〕

１．地域の特徴を知り、生活を支えるシステムを理解できる。
２．地域で生活する人々の生きがいと活動の実際を理解できる。
３．日常生活援助が必要な療養者の生活の場を理解できる。
４．地域で生活する人々の健康の保持増進に向けての看護活動の実際を理解できる。
５．地域社会をよりよくするための看護を考えることができる。
６．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

〔　行動目標・内容　〕

	行　動　目　標	内　　容
市役所	1.　地域の特徴を知り、生活を支えるシステム理解できる。 1)地域で生活する人々の生活、健康に関するニーズが記述できる。 2)地域で生活する人々の社会資源の活用方法を記述できる。	 （１）八王子市の高齢者対策の現状、 （２）八王子市の障害者福祉サービス （３）生活保護・権利擁護 （４）地域包括ケアシステム （１）介護保険 （２）高齢者医療保険
介護施設	２．地域で生活する人々の生きがいと活動の実際を理解できる。 １）利用者の行っているレクリエーションや常生活を通して、対象の情報収集ができる。 ２）利用者の加齢変化・障害による日常生活行動への影響についてアセスメントできる。 ３）利用者の生活場面を支える職種と役割について、さらに看護と介護の連携について考え、記述できる。 ４）利用者の意志を尊重しながら、安全にレクリエーションが企画運営できる。	 （１）日常生活に対する利用者の考え方・ねがい・思い （２）加齢変化 （３）日常生活行動 （１）加齢による健康上の問題 （２）持てる力 （３）残存機能 （１）医師・看護師・介護士・社会福祉士・ケアマネージャー・理学療法士の役割 （２）看護と介護 （１）高齢者のレクリエーションの目的・意義 （２）利用者の意志・自立度・安全を考慮したレクリエーションの運営

介護施設	３．日常生活援助が必要な療養者の生活を理解できる。 １）特別養護老人ホームの概要を記述できる ２）療養者の生活状況について記述できる。 ３）看護師と一緒に療養者の日常生活援助を安全に実施できる。 ４）医療・福祉・介護チームにおける看護の役割が記述できる。	 （１）特別養護老人ホームの法的位置づけ （２）設置基準 （３）人員配置 （４）入所基準 （１）療養環境 （２）療養状況 （３）一日の流れ （４）療養者とのコミュニケーション （１）援助の目的 （２）療養者の状態・反応 （３）安全・安楽な日常生活援助 （１）介護福祉士の役割 （２） 社会福祉士の役割 （３） ＩＰＷの基本的な考え方
保健福祉センター	４．地域で生活する人々の健康の保持増進に向けての看護活動の実際を理解できる。 １）保健福祉センターの施設概要を記述できる。 ２）市民の健康の保持増進に向けての看護活動の実際を記述できる。	 （１）市民の健康づくり （２）高齢者の生きがいづくり （３）多世代交流の場 （４）市民活動の場 （１）相談事業 （２）成人保健介護予防 （３）介護予防 （４）地区活動 （５）高齢者・障害者福祉
高齢者見守り相談室	５．地域社会をよりよくするための看護を考えることができる。 １）高齢者見守り相談室事業内容について記述できる。 ２）地域の互助活動に参加し、コミュニティが住民に与える影響について記述できる。	 （１） 地域の実態把握 （２） 生活の中での緊急時の対応 （３）よろず相談窓口 （４）見守り活動 （１）介護予防 （２）引きこもり・孤立化予防 （３）社会参加への意欲 （４）健康保持・増進に向けての活動 （５）セーフティーネット

高齢者見守り相談室	3）地域に求められる看護師の役割について自身の考えを記述できる。	（1）多職種連携・調整 （2）マネジメント （3）医療的介入 （4）予防的介入 （5）リスクマネジメント （6）専門性の発揮の発揮
全施設	6. 看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。 1）主体的に取り組むことができる。	（1）計画的な取り組み （2）提出物の期限 （3）事前学習への前向きなに取り組み （4）追加学習・文献の活用 （5）疑問点への積極的な探究 （6）主体的な実習計画の立案 （7）学習記録内容の修正・追加
	2）相手を尊重した態度がとれる。	（1）礼儀正しい言葉遣い （2）学生らしい身だしなみ （3）情緒の安定性 （4）良好な人間関係 （5）グループダイナミクスの活用
	3）責任を持って行動ができる。	（1）報告・連絡・相談 （2）施設との約束の順守 （3）守秘義務が遵守 （4）実習の留意事項の遵守 （5）実習記録の取り扱い遵守 （6）事故の回避と対応 （7）時間厳守 （8）出欠席の報告義務
	4）遅刻・欠席・早退しない。	（1）無遅刻・無欠席 （2）自己の健康管理 （3）早期受診と報告の義務 （4）学習環境の調整 （5）感染予防対策の遵守
	5）実習を振り返り、看護に対する思いや考えを述べることができる。	（1）自己の振り返り （2）自己の看護観の言語化 （3）今後の課題の明確化

〔　日程スケジュール　〕

	月	火	水	木	金
1週目		直前オリエンテーション	市役所	介護施設	介護施設
2週目	介護施設	介護施設	介護施設	介護施設	高齢者見守り相談室
3週目	保健福祉センター	保健福祉センター	合同カンファレンス		

〔　事前課題　〕

＜共通課題＞

１．介護保険制度
２．社会福祉法と福祉６法
３．障害者総合支援法
４．難病法
５．地域・在宅看護の背景（社会問題含む）
６．地域包括ケアシステム
７．多職種連携実践（ＩＰＷ）の基礎知識
　１）地域・在宅における（専門職）の理解
　２）地域・在宅における看護師の役割

＜地域・在宅看護論実習Ｉ＞

１．通所介護サービス・通所リハビリテーションの概要
２．保健福祉センターの概要
３．高齢者見守り相談室の概要

〔　実習記録　〕

１．市役所実習記録
２．通所介護サービス・通所リハビリテーション実習記録
３．入所型介護施設実習記録
４．保健福祉センター実習記録
５．高齢者見守り相談室実習記録
６．評価表
７．技術経験録
８．レポート「地域・在宅看護論Ｉ　実習を終えての学びと課題」
　400 字詰め原稿用紙　800～1200 字以内　　文末に文字数を入れる

〔　実習評価　〕

地域・在宅看護論実習Ｉ評価基準に基づいて評価

地域・在宅看護論実習Ⅱ　【２単位　90 時間】

〔　目　的　〕

地域で生活・療養する人々とその家族を理解し、その人らしい生活が送れるよう支援する基礎的能力を養う。

〔　目　標　〕

１．地域包括支援センターの役割機能を理解できる。
２．訪問看護の制度、訪問看護の役割を理解できる。
３.在宅療養者とその家族について理解し、生活の場での看護過程の展開ができる。
４．在宅における看護実践の方法を知り、その一部を安全に実施できる。
５．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

〔　行動目標・内容　〕

	行動目標	内容
地域包括支援センター	１．地域包括支援センターの役割機能を理解できる。 １）地域包括センターの概要を記述できる。	（１）地域包括支援センターの法的位置づけ （２）配置職種 （３）地域包括支援センターの事業内容 ①介護予防ケアマネジメント ②総合相談支援 ③権利擁護 ④包括的・継続的ケアマネジメント支援
	２）地域の特徴を捉え、生活する人々の生活課題について記述できる。	（１）地域の特徴 ①世帯構造、高齢化率 ②生活利便性、交通利便性 ③生活者の経済レベル ④その他 （２）地域の課題 （３）生活する人々の課題
	３）地域包括ケアセンターの活動の実際を記述できる。	（１）「八王子版」地域包括ケアシステム （２）公助、共助、互助、自助 （３）多職種連携・協働によるチームアプローチ
訪問看護ステーション	２．訪問看護の制度、訪問看護の役割を理解できる。 １）訪問看護ステーションの概要、運営・管理、サービの仕組みについて記述できる。	（１）所在地域の特徴 ①世帯構造、高齢化率 ②生活利便性、交通利便性 ③生活者の経済レベル ④その他 （２）訪問看護ステーションの概要 ①設置主体 ②理念 ③職員構成 ④併設事業、連携施設

訪問看護ステーション		（３）訪問看護ステーションの機能と業務の流れ） 疾病や障害の種類と程度、訪問内容と頻度、件数 （４）安全管理、災害時の対応 （５）多職種連携 （６）訪問看護サービスの仕組み ①介護保険、医療保険 ②公的医療補助 ③障害者総合支援法 ④社会福祉制度
	２）訪問看護師の役割を記述できる。	（１）在宅療養への指導 （２）療養相談 （３）自立（安らかな死）に向けての援助 （４）社会資源の活用の助言 （５）家族の精神的な支えと健康状態の把握 （６）医師・医療従事者間との調整 （７）多職種連携
	３．在宅療養者とその家族について理解し生活の場での看護過程の展開ができる。 １）在宅療養者と家族の生活状況が記述できる。	（１）生活リズム、生活習慣 （２）発達課題（ライフステージ、ライフイベント） （３）価値観、生活信条 （４）職歴、生活歴、生育歴 （５）療養者の家族構成（ジェノグラム） （６）家族の生活リズム、生活習慣 （７）療養環境 （８）経済状況
	２）在宅療養者の社会資源の活用状況が記述できる。	（１）社会資源の種類と内容、法的根拠 （２）活用の目的
	３）在宅療養者の健康状態が生活に及ぼす影響について情報収集できる。	（１）訪問看護導入までの経過、訪問目的 （２）療養者と家族の在宅療養に対するねがい （３）療養者の既往歴、現病歴、治療方針（訪問看護指示書）及び内容、症状、心理的状況（受け止め方） （４）ＡＤＬ、ＩＡＤＬ （５）家族の健康状態、介護への思い、介護状況、
	４）収集した情報を分析・解釈し、対象を統合的に捉え記述できる。	（１）４側面で情報の整理（強み・弱み） （２）在宅療養者の疾病や障害が生活に及ぼす影響 （３）在宅療養が家族に及ぼす影響 （４）在宅療養者の健康状況から起こりうる変化の予測 （５）在宅療養者と家族のセルフケア能力 （６）関連図

訪問看護ステーション	5）在宅療養者とその家族の療養上の課題を明確にできる。	（1）看護課題の明確化 （2）リスク型の課題の見極め （3）優先順位
	6）在宅療養者のねがいに沿った看護計画を立案できる。	（1）長期目標の設定 （2）短期目標の設定 （3）自立支援（強みを引き出す） （4）日常生活との調和（価値観・生活習慣の尊重） （5）セルフケア能力（家族を含む）や活用可能な社会資源を考慮した継続可能なケア （6）ケアの担い手の検討 （7）経済的負担への配慮と物品の工夫 （8）意思決定支援
	7）立案した計画を評価できる。	（1）訪問時の療養者・家族の状況 （2）計画の妥当性
	4．在宅における看護実践の方法を知り、その一部を安全に実施できる。 1）対象にあった看護活動の根拠を知り、その一部を指導者とともに安全・安楽に実施できる。	（1）援助の見学及び実施 ①経済的負担に配慮した援助方法の工夫 ②時間制限を考慮した援助方法の工夫 ③対象に合わせたコミュニケーション方法の選択 ④感染防止 ⑤介護者の介護方法の尊重 ⑥多職種との連携・調整・協働
	2）対象の反応を捉え、見学、実施した看護活動を振り返り、その目的を考察し、記述できる。	（1）訪問時の対象の反応 （2）看護活動の実際とその根拠
	3）訪問看護における基本的なマナーを実践できる。	（1）訪問時のマナー（服装、態度、言葉遣い） （2）家庭内の設備や物品の取り扱い
全実習施設	5．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。 1）主体的に取り組むことができる。	（1）計画的な取り組み （2）提出物の期限 （3）事前学習への取り組み （4）追加学習・文献の活用 （5）疑問点への積極的な探究 （6）主体的な実習計画の立案 （7）学習記録内容の修正・追加
	2）相手を尊重した態度がとれる。	（1）礼儀正しい言葉遣い （2）学生らしい身だしなみ （3）情緒の安定性 （4）良好な人間関係 （5）グループダイナミクスの活用

全実習施設	３）責任を持って行動ができる	（１）報告・連絡・相談 （２）施設との約束の遵守 （３）守秘義務の遵守 （４）実習の留意事項の遵守 （５）実習記録の取り扱い遵守 （６）事故の回避と対応 （７）時間厳守 （８）出欠席の報告義務
	４）遅刻・欠席・早退しない。	（１）無遅刻・無欠席 （２）自己の健康管理 （３）早期受診と報告の義務 （４）学習環境の調整 （５）感染予防対策の遵守
	５）実習を振り返り、看護に対する思いや考えを記述できる。	（１）自己の振り返り （２）自己の看護観の言語化 （３）今後の課題の明確化

〔　日程スケジュール　〕

	月	火	水	木	金
1週目		直前オリエンテーション	地域包括支援センター	地域包括支援センター	地域包括支援センター
2週目	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	合同カンファレンス	訪問看護ステーション
3週目	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション		

〔　事前課題　〕

＜共通課題＞

１．介護保険制度
２．社会福祉法と福祉６法
３．障害者総合支援法
４．難病法
５．地域・在宅看護の背景（社会問題含む）
６．地域包括ケアシステム
７．多職種連携実践（ＩＰＷ）の基礎知識
　１）地域・在宅における専門職の理解
　２）地域・在宅における看護師の役割

＜地域・在宅看護論実習Ⅱ＞

１．医療保険制度
２．地域包括支援センターの概要
３．訪問看護ステーションの概要（訪問看護制度含む）
４．主な疾患（ＣＯＰＤ、筋ジストロフィー、パーキンソン病、ＡＬＳ、脳血管疾患、脊髄小脳変性症多系統萎縮症、心不全など）
５．日常を支える技術（食事、排泄、清潔、活動と休息、呼吸）
６．訪問時のマナー

〔　実習記録　〕

１．地域包括支援センター
　１）見学実習記録用紙
　２）戸別訪問実習記録用紙（戸別訪問があった場合のみ）

２．訪問看護ステーション
　１）１号紙（フェイスシート）
　２）２－２ワークメンバー表１号紙（情報整理シート）
　３）２－２号紙（アセスメントシート）
　４）３号紙（関連図）
　５）５号紙（看護計画）
　６）６号紙（同行訪問記録）
　７）評価表
　８）技術経験録
３．レポート「地域・在宅看護論Ⅱ実習を終えての学びと課題」
　　400 字詰め原稿用紙　800～1200 字以内（文末に文字数を記入）

〔　実習評価　〕

地域・在宅看護論実習Ⅰ評価基準に基づいて評価

成人・老年看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）【２単位　90 時間】

〔　目　的　〕

急性期・回復期にある成人・老年期の対象を理解し、周手術期および回復過程に必要な看護が実践できる基礎的能力を養う。

〔　目　標　〕

１．急性期の対象・家族への対応および地域医療における連携について理解できる。
２．急性期治療を受ける対象の看護が理解できる。
３．周手術期および回復過程に必要な看護が展開できる。
４．チーム医療における看護師の役割及び連携について理解できる。
５．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習の臨むことができる。

〔　行動目標・内容　〕

行　動　目　標	内　　容
１．急性期の対象者・家族への対応および地域医療における連携について理解できる。	
１）救急の対象・家族の対応について記述できる。	（１）対象の身体的状況の把握 （２）対象の心理的および社会的状況の把握 （３）家族の心理的状況の把握 （４）対象・家族への救急対応の見学
２）救急場面における地域医療連携について記述できる。	（１）救急医療体制 （２）搬送・報告・連絡の状況 （３）救急隊と病院の連携 （４）救急隊と地域の連携 （５）地域と病院の連携 ※実習　第１日目　救急車同乗
２．急性期治療を受ける対象の看護が理解できる。	
１）集中治療を受ける対象の治療・看護が記述できる。	（１）集中治療室の概要 （２）集中治療を受ける対象の特徴

	（３）集中治療室の環境 （４）集中治療室における治療の見学 （５）集中治療室における看護の見学 ※実習　第２日目　ＩＣＵ・ＣＣＵ 救命救急見学実習
２）手術を受ける対象の治療・看護が記述できる。	（１）手術室の概要 （２）手術室を受ける対象の特徴 （３）手術室の環境 （４）手術室における治療の見学 （５）手術室における看護の見学 ※実習２日目　手術室見学実習
３．周手術期および回復過程に必要な看護が展開できる	
１）対象の状態に合わせたコミュニケーションがとれる。	（１）接近的コミュニケーション （２）意図的なコミュニケーション （３）対象の意思決定の尊重
２）周手術期の対象の看護に必要な情報収集ができる。	（１）手術の適応に至る経過・検査結果・既往歴・症状・治療・受け止め方 （２）発達段階 （３）日常生活・日常生活習慣 （４）社会的状況 （５）精神的状態
３）情報を整理し分析・解釈して看護上の問題が明確にできる。	（１）情報と手術侵襲における生体反応・合併症の予測をふまえた分析・解釈 （２）看護上の問題の明確化
４）看護目標を記述でき、対象に応じた看護計画を立案できる。	（１）看護目標の明確化 （２）看護計画立案 （３）実施方法の立案

５）安全・安楽に手術が受けられるように援助できる。	（１）術前オリエンテーション （２）術後合併症予防のための術前訓練・教育 （３）術前の準備（術前検査・処置の確認・実施または見学） （４）不安の軽減への援助の実施 （５）自己の受容状況
６）手術中の対象の状況を記述できる。	（１）手術方法 （２）全身麻酔の実際 （３）手術中の観察 （４）全身状態の変化の把握 （５）手術中起こりうる合併症のリスク ※受け持ち患者の手術見学
７）手術後早期の回復を促進する援助ができる。	（１）身体的・精神的苦痛の緩和の援助 （２）各種チューブ・ドレーン類・創部管理 （３）手術後の状態に合わせた環境調整 （４）安全な合併症予防の援助 （５）状態に合わせた日常生活の援助 （６）自然治癒力を引き出す援助 （７）回復を早めるための援助と指導
８）日常生活の自立にむけた看護ができる。	（１）自立に向けた合併症予防の援助と指導 （２）再発の予防の指導 （３）生活行動の自立拡大への指導・教育
９）看護目標の評価・修正・追加ができる。	（１）看護目標の評価 （２）援助・指導の振り返り
４．チーム医療における看護師の役割及び連携について理解できる。 １）チーム医療メンバーの役割が記述できる。	（１）チーム医療メンバーの役割 （看護師、医師、薬剤師、栄養士、臨床工学士、ＭＳＷ）

２）多職種との連携の必要性が記述できる。	（１）多職種との連携の必要性 （２）社会資源の活用 （３）地域との連携
５．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。 １）主体的に取り組むことができる。	（１）計画的な取り組み （２）提出物の期限 （３）事前学習への前向きなに取り組み （４）追加学習・文献の活用 （５）疑問点への積極的な探究 （６）主体的な実習計画の立案 （７）学習記録内容の修正・追加
２）相手を尊重した態度がとれる。	（１）礼儀正しい言葉遣い （２）学生らしい身だしなみ （３）情緒の安定性 （４）良好な人間関係 （５）グループダイナミクスの活用
３）責任を持って行動ができる。	（１）報告・連絡・相談 （２）施設との約束の順守 （３）守秘義務が遵守 （４）実習の留意事項の遵守 （５）実習記録の取り扱い遵守 （６）事故の回避と対応 （７）時間厳守 （８）出欠席の報告義務
４）遅刻・欠席・早退しない。	（１）無遅刻・無欠席 （２）自己の健康管理 （３）早期受診と報告の義務 （４）学習環境の調整 （５）感染予防対策の遵守
５）実習を振り返り、看護に対する思いや考えを記述できる。	（１）自己の振り返り （２）自己の看護観の言語化 （３）今後の課題の明確化

〔　日程スケジュール　〕

	月	火	水	木	金
1週目		直前オリエンテーション	救急車同乗	手術室見学 救命救急見学	病棟
2週目	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
3週目	病棟	病棟	病棟		

〔　救命救急見学スケジュール　〕

時間 AM	PM	項目	内容
8:30	13:00	教員室集合	ＤＶＤ学習　人工呼吸器装着中の看護
9:50	14:20	挨拶 施設内の見学・説明	集中治療室の概要、対象の特徴、環境、治療の見学、看護の見学
11:00	15:30	救命救急病棟の説明	ＩＣＵ・ＣＣＵ・ヘリポート、対象の状況を知る
11:30	16:00	カンファレンス	「救命救急見学実習の学び」
12:00	16:30	実習終了	

〔　手術室見学スケジュール　〕

時間 AM	PM	項目	内容
8:30	13:00	手術室前集合 挨拶　更衣 オリエンテーション 施設見学 手術見学	手術室の概要 環境 治療の見学 対象の麻酔・手術の状況を知る
11:30	16:00	カンファレンス	「手術室見学実習の学び」
12:00	16:30	実習終了	

〔　事前課題　〕

１．成人期・老年期の理解

１）成人期・老年期の発達課題　（エリクソン・ハヴィガースト・ペッグ）

２）成人期・老年期の身体的・精神的・社会的特徴

２．成人・老年看護学実習Ｉ

１）所定の用紙（ＩＣＵ・ＣＣＵ救急見学実習・手術室見学実習事前学習）

２）麻酔や手術が全身に及ぼす影響について

（１）麻酔の種類

（２）麻酔の侵襲が生体に及ぼす影響（周手術期ワークブック）

※（術後に起こりやすい合併症）については詳細に記入すること。

（３）手術が身体へ及ぼす影響

（４）手術の体位について

３）術前検査の機能の項目と指標となる検査項目（正常値を含む）

（１）呼吸機能

（２）心機能

（３）血液データ（肝機能・腎機能）

４）術前処置（身体的準備）の目的とその方法について

５）呼吸器合併症予防の目的及びその方法について

６）術後の創傷治癒経過について

７）早期離床について

８）回復期の定義

９）回復期の特徴

10）回復期の看護のポイント

11）自立への援助について

（１）リハビリテーションの概念

（２）二次障害・再発の予防

①褥瘡予防

②拘縮予防

③筋力低下の予防

12）フィンクの危機理論

〔　留意事項　〕

１．ＩＣＵ・ＣＣＵ救命救急見学実習・手術室見学実習の詳細は、ガイダンスで確認する。

２．多職種連携カンファレンスに参加し、退院支援を学ぶ。

〔　実習記録　〕

１．受け持ち患者記録

１）基本情報（１号紙－①）

２）データベース（１号紙－②）

３）情報の整理、解釈・統合（２号紙－①～③）

４）情報関連図（３号紙）

５）看護診断リスト（４号紙）

６）看護計画立案・評価（５号紙－①～②）

７）援助計画（６号紙－①～②）

８）ＩＣＵ・ＣＣＵ救命救急見学実習記録用紙

９）手術室見学記録用紙

10）救急車同乗見学実習記録

２．評価表

３．技術経験録

４．レポート「成人・老年看護学実習Ｉを終えての学びと課題」

400 字詰め原稿用紙　800～1200 字以内（文末に文字数を入れる）

〔　実習評価　〕

成人・老年看護学実習Ｉの評価基準に基づいて評価

成人・老年看護学実習Ⅱ（慢性期）　【２単位　90 時間】

〔　目　的　〕

慢性期にある対象および家族を理解し、セルフケアに向けた看護が実践できる基礎的能力を養う。

〔　目　標　〕

１．透析療法を受ける対象の看護が理解できる。
２．対象を総合的にとらえ、慢性期にある対象に必要な看護が展開できる。
３．チーム医療における看護師の役割及び連携について理解できる。
４．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

〔　行動目標・内容　〕

行　動　目　標	内　　容
１．透析療法を受ける対象の看護が理解できる。	
１）透析療法の受ける治療環境が記述できる。	（１）透析室の環境 （２）透析装置の仕組み
２）透析療法を受ける対象の身体的・精神的・社会的影響を記述できる。	（１）身体的状態 ①透析前中後の症状 ②シャントの状態 （２）精神的状態 ①疾患の受容過程 ②現在の疾患への思い ③透析療法への受け止め方 ④治療への理解 ⑤不安の有無
３）透析を受ける対象の看護が記述できる。	（３）社会的状態 ①社会的役割 ②家族支援体制 ③現在の生活 ④生活の変化 ⑤生活の工夫

	（1）透析室における看護の実際 ①全身状態の観察・管理 （2）看護の役割 ※透析室見学実習（南多摩病院） 第1週目または第2週目　1日目
2．対象を総合的にとらえ、慢性期にある対象に必要な看護が展開できる。 1）対象の状態に合わせたコミュニケーションがとれる。	（1）接近的コミュニケーション技術 （2）意図的なコミュニケーション技術 （3）疾患・治療の思いへの傾聴・共感 （4）アドヒアランス向上へのコミュニケーション
2）慢性期の対象の看護に必要な情報収集ができる。	（1）治療に至る経過・検査結果・既往歴・症状・治療・受け止め方 （2）発達段階 （3）日常生活・日常生活習慣 （4）社会的役割 （5）精神的状態
3）情報を整理し分析・解釈して看護上の問題が明確にできる。	（1）情報とセルフケア能力・合併症の予測をふまえた分析・解釈 （2）自己管理能力 （3）看護上の問題の明確化
4）看護目標を記述でき、対象に応じた看護計画を立案できる。	（1）看護目標の明確化 （2）看護計画立案 （3）実施方法の立案
5）対象の障害受容に向けて精神的支援ができる。	（1）疾患への受け止め方 （2）受容・共感的態度 （3）家族の受け止め方 （4）持てる力・強みへの支援 （5）自己効力感向上・エンパワーメントへの支援

６）対象・家族セルフケア再獲得のための援助ができる。	（１）日常生活援助 （２）日常生活自立への援助 （３）検査・治療への援助 （４）自立への精神的援助
７）対象・家族の個別性を考えて指導を選択し、実施することができる。	（１）セルフケアの継続（指導） （２）指導教材（パンフレット・カード） ①指導案の作成 ②身体・視覚・聴覚・理解力を考慮した方法を選択 ③反応を見ながらの実施 （３）理解度に合わせた内容の調整 （４）ストレス対処方法 （５）社会資源の活用
８）看護目標の評価・修正・追加ができる。	（１）看護目標の評価・修正・追加 （２）看護援助・指導の振り返り
３．チーム医療における看護師の役割及び連携について理解できる。 １）チーム医療メンバーの役割が記述できる。	（１）チーム医療メンバーの役割 ①病棟看護師 ②退院調整看護師 ③訪問看護師
２）多職種との連携の必要性が記述できる。	（１）多職種との連携の必要性 （２）社会資源の活用 （３）地域との連携
4．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことが出来る。 １）主体的に取り組むことができる。	（１）計画的な取り組み （２）提出物の期限 （３）事前学習への前向きなに取り組み （４）追加学習・文献の活用 （５）疑問点への積極的な探究 （６）主体的な実習計画の立案 （７）学習記録内容の修正・追加

２）相手を尊重した態度がとれる。	（１）礼儀正しい言葉遣い （２）学生らしい身だしなみ （３）情緒の安定性 （４）良好な人間関係 （５）グループダイナミクスの活用
３）責任を持って行動ができる。	（１）報告・連絡・相談 （２）施設との約束の順守 （３）守秘義務が遵守 （４）実習の留意事項の遵守 （５）実習記録の取り扱い遵守 （６）事故の回避と対応 （７）時間厳守 （８）出欠席の報告義務
４）遅刻・欠席・早退しない。	（１）無遅刻・無欠席 （２）自己の健康管理 （３）早期受診と報告の義務 （４）学習環境の調整 （５）感染予防対策の遵守
５）実習を振り返り、看護に対する思いや考えを述べることができる。	（１）自己の振り返り （２）自己の看護観の言語化 （３）今後の課題の明確化

〔　日程スケジュール　〕

	月	火	水	木	金
1週目		直前オリエンテーション	病棟	病棟	病棟
2週目	病棟	病棟	病棟 (透析室見学)	病棟	病棟 (透析室見学)
3週目	病棟	病棟	病棟		

〔　透析見学実習スケジュール　〕

時間	項目	内容
8:30	集合・オリエンテーション	挨拶　学生の体調確認
8:45	ミーティング・目標の発表	透析室に移動し挨拶
8:50	透析準備見学	プライミングの見学・入室前のトリアージ
9:00	患者入室・体重測定 透析の実際　　穿刺・介助の見学	透析室の特徴・看護体制・勤務体制
9:15	バイタルサインの見学 透析患者とコミュニケーション 人工腎臓の原理原則・構造	一般状態の把握、経過、生活状況の等の情報収集 機器チェックの見学し透析について理解する
12:00	休憩	
13:00	バイタルサインの見学	透析中に起こりうる合併症の観察と看護の方法を理解する
13:15	返血・抜針・患者退室	透析後の看護を理解する
14:30	シーツ交換実施	
15:00	カンファレンス	
16:30	実習終了	

〔　事前課題　〕

１．成人期・老年期の理解

１）成人期・老年期の発達課題　（エリクソン・ハヴィガースト・ペッグ）

２）成人期・老年期の身体的・精神的・社会的特徴

２．成人・老年看護学実習Ⅱで活用できる概念

１）慢性期の定義

２）慢性期の特徴

（１）慢性期への移行

（２）慢性期治療の目標

３）慢性期の看護のポイント

（１）コンプライアンス・アドヒアランス

（２）自己管理プロセス

（３）自己効力

①遂行行動の成功体験　　②代理的経験（モデリング）

③言語的説得　　④生理的・情動的状態

４）セルフマネジメント

目的・定義・セルフマネジメントに必要とされる看護師の能力

５）コーンの障害の受容過程

〔　留意事項　〕

１．透析見学実習の詳細は、ガイダンスで確認すること。

２．透析見学実習は、第２週目　水曜日　となる。

　２グループ実習の場合は、第２週目　水曜日と金曜日となる。

３．他職種連携カンファレンスに参加し、退院支援を学ぶ。

〔　実習記録　〕

１．受け持ち患者記録

　１）基本情報（１号紙－①）

　２）データベース（１号紙－②）

　３）情報の整理、解釈・統合（２号紙－①～③）

　４）情報関連図（３号紙）

　５）看護診断リスト（４号紙）

　６）看護計画立案・評価（５号紙－①～②）

　７）援助計画（６号紙－①～②）

　８）透析見学実習記録用紙

２．評価表

３．技術経験録

４．レポート「成人・老年看護学実習Ⅱを終えての学びと課題」

　400 字詰め原稿用紙　800～1200 字以内（文末に文字数を入れる）

〔　実習評価　〕

成人・老年看護学実習Ⅱの評価基準に基づいて評価

成人・老年看護学実習Ⅲ（終末期）　【２単位　90 時間】

〔　目　的　〕

終末期にある対象および家族の全人的苦痛を理解し、苦痛緩和への看護が実践できる基礎的能力を養う。

〔　目　標　〕

１．人間を重んじる態度を身につけることができる。
２．対象を総合的にとらえ、終末期にある対象に必要な看護が展開できる。
３．人生最終段階における対象・家族に必要な看護が理解できる。
４．チーム医療における看護師の役割及び連携について理解できる。
５．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

〔　行動目標・内容　〕

行　動　目　標	内　　容
１．人間の尊厳を重んじる態度を身に付けることができる。	
１）自己の死生観について記述できる。	（１）自己の情動反応 （２）自己の死生観・価値観
２）対象の価値観・信念を理解し重んじることができる。	（１）自己決定と家族の意思決定 （２）対象の価値観・信念の尊重
２．対象を総合的にとらえ、終末期にある対象に必要な看護が展開できる。	
１）対象の状態に合わせたコミュニケーションがとれる。	（１）接近的コミュニケーション技術 （２）意図的なコミュニケーション技術 （３）疾患・治療の思いへの傾聴・共感・受容 （４）苦痛・不安へ寄り添う
２）終末期の対象の看護に必要な情報収集ができる。	（１）治療に至る経過・検査結果・既往歴・症状・治療・受け止め方予後・延命処置の意思 （２）発達段階 （３）日常生活・日常生活習慣

	（４）社会的役割 （５）精神的状態
３）情報を整理し分析・解釈して看護上の問題が明確にできる。	（１）情報から身体的苦痛・精神的痛・社会的苦痛・スピリチュアルペイン・予後・合併症の予測をふまえた分析・解釈 （２）看護上の問題の明確化
４）看護目標を記述でき、対象に応じた看護計画を立案できる。	（１）看護目標の明確化 （２）看護計画立案
５）身体的苦痛緩和の援助ができる。	（１）身体的苦痛への援助 ①症状別看護 ②対象に合わせた安全・安楽な日常生活援助
６）精神的・社会的苦痛緩和が理解できる。	（１）精神的苦痛への苦痛緩和 ①病状への不安 （２）社会的苦痛への苦痛緩和 （３）スピリチュアルペインへの苦痛緩和 （４）社会的苦痛への苦痛緩和
７）その人らしい療養生活が送れるよう援助できる。	（１）ＱＯＬを考慮した日常生活援助 （２）対象の希望への援助 （３）生きがいの援助 （４）社会資源の活用と退院調整
８）看護目標の評価・修正・追加ができる。	（１）看護目標の評価・修正・追加 （２）援助・指導の振り返り
３．人生の最終段階における対象・家族に必要な看護が理解できる。 １）危篤時の看護が記述できる。	（１）身体機能の変化 （２）死の３兆候の観察 （３）死亡確認

２）看取りの看護が理解できる。 ３）対象・家族への看護が記述できる。	（１）看取りの看護 ①プライバシー・人権の尊重 ②死後の処置 ③ケアの家族参加 （１）家族への声掛けと配慮 （２）家族の身体的負担への援助 （３）グリーフケア （４）家族の援助への参加 ①スキンシップ ②ねぎらい ※2 週目午後　臨床での人生最終段階における対象の看護の実際
４．チーム医療における看護師の役割が理解できる。 １）チーム医療メンバーの役割が記述できる。 ２）多職種との連携の必要性が記述できる。	（１）チーム医療メンバーの役割 ①看護師 ②医師 ③薬剤師 ④栄養士 ⑤メディカルソーシャルワーカー （１）多職種との連携の必要性 （２）社会資源の活用 （３）地域との連携
５．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。 １）主体的に取り組むことができる。	（１）計画的な取り組み （２）提出物の期限 （３）事前学習への前向きなに取り組み （４）追加学習・文献の活用 （５）疑問点への積極的な探究 （６）主体的な実習計画の立案 （７）学習記録内容の修正・追加

２）相手を尊重した態度がとれる。	（１）礼儀正しい言葉遣い （２）学生らしい身だしなみ （３）情緒の安定性 （４）良好な人間関係 （５）グループダイナミクスの活用
３）責任を持って行動ができる。	（１）報告・連絡・相談 （２）施設との約束の順守 （３）守秘義務が遵守 （４）実習の留意事項の遵守 （５）実習記録の取り扱い遵守 （６）事故の回避と対応 （７）時間厳守 （８）出欠席の報告義務
４）遅刻・欠席・早退しない。	（１）無遅刻・無欠席 （２）自己の健康管理 （３）早期受診と報告の義務 （４）学習環境の調整 （５）感染予防対策の遵守
５）実習を振り返り、看護に対する思いや考えを記述できる。	（１）自己の振り返り （２）自己の看護観の言語化 （３）今後の課題の明確化

〔　日程スケジュール　〕

	月	火	水	木	金
1週目		直前オリエンテーション	病棟	病棟	病棟
2週目	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
	午後　臨地での人生最終段階における対象の看護の実際				
3週目	病棟	病棟	病棟		

〔　事前学習　〕

１．成人期・老年期の理解

１）成人期・老年期の発達課題　（エリクソン・ハヴィガースト・ペッグ）

２）成人期・老年期の身体的・精神的・社会的特徴

２．成人・老年看護学実習Ⅲで活用できる概念

１）緩和ケア（WHO緩和ケアの定義）・ターミナルケア

２）全人的苦痛（トータルペイン）

３）ＳＯＬ・終末期におけるＱＯＬ

４）安楽死・尊厳死

５）緩和ケアにおけるインフォームド・コンセント

３．臨終の過程・兆候・看護

１）身体的特徴（臨終間近～死の３徴候～死後）

２）臨終間近の看護

３）臨終時の看護

４）死後のケア

４．患者と家族の心理

１）村田理論（時間存在・関係存在・自律存在）

２）キューブラ・ロスの死の受容過程

３）悲嘆　　①予期悲嘆　②悲嘆のプロセス　③グリーフケア

５．疼痛コントロールと看護
　１）がん性疼痛の病態
　２）痛みのアセスメント
　３）使用薬剤とその副作用
６．化学療法時の看護
　１）抗がん剤の取り扱い
　２）副作用・看護（経過別）
７．放射線療法の有害反応・看護
８．輸血療法（手順書/前・中・後）
９．自分なりの死生観のレポート（臨床看護の実践でのレポート）
10．ホスピス見学のレポート（臨床看護の実践でのレポート）
11．成人看護学実習　病棟別ファイル参照　（解剖生理、疾患、治療、処置、看護など）

〔　留意事項　〕
１．自己の死生観については、カンファレンスで話し合い、実習を通してレポートにまとめて記載する。
２．実習２週目の午後、いずれかで人生の最終段階における対象の看護の実際を学ぶ。
３．他職種連携カンファレンスに参加し、退院支援を学ぶ。

〔　実習記録　〕
１．受け持ち患者記録
　１）基本情報（1 号紙－①）
　２）データベース（1 号紙－②）
　３）情報の整理、解釈・統合（2 号紙－①～③）
　４）情報関連図（3 号紙）
　５）看護診断リスト（4 号紙）
　６）看護計画立案・評価（5 号紙－①～②）
　７）援助計画（6 号紙－①～②）
　８）「人生の最終段階における対象・家族に必要な看護についての学び」用紙
２．評価表
３．技術経験録
４．レポート「成人・老年看護学実習Ⅲを終えての学びと課題」
　　400 字詰め原稿用紙　800～1200 字以内（文末に文字数を入れる）

〔　実習評価　〕
　成人・老年看護学実習Ⅲの評価基準に基づいて評価

成人・老年看護学実習Ⅳ（多職種連携）　【２単位　90 時間】

〔　目　的　〕

成人・老年期にある健康障害をもつ対象を理解し、多職種間で連携・協働しながら対象に必要な看護を展開できる基本的能力を養う。

〔　目　標　〕

１．成人・老年期にある対象および家族を尊重し、信頼関係を築くことができる。
２．成人・老年期にある対象を総合的に理解し、必要な看護が展開できる。
３．チーム医療における看護師の役割と連携が理解できる。
４．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

〔　行動目標・内容　〕

行　動　目　標	内　容
１．成人・老年期にある対象および家族を尊重し、信頼関係を築くことができる。	
１）対象の状態に合わせたコミュニケーションがとれる。	（１）対象・家族の意思の尊重 （２）接近的コミュニケーション技法の活用 （３）双方的な相互作用 （４）効果的なコミュニケーション
２）対象と援助的関係を形成することができる。	（１）倫理的な行動 （２）必要な情報提供 （３）目的の共有 （４）説明と同意 （５）対象の意思決定支援
２．成人・老年期にある対象を総合的に理解し、必要な看護が展開できる。	
１）対象の看護に必要な情報収集ができる。	（１）成人・老年期の発達段階の特徴 ①身体的：セルフケア能力の査定、身体の機能、持てる力 ②心理的：希望・期待・悩み・不安 ③社会的：生活史、生活習慣、社会的役割

	家族役割の変化、キーパーソン ④文化的：環境への適応状況、生きがい （2）健康状態に関連した情報 ①病態生理、治療方針・目標 ②疾患の受け止め
2）情報を整理し、分析・解釈・総合し、看護上の問題を明確にできる。	（1）情報の分析、解釈 （2）看護診断との統合 （3）関連図を用いた全体像の把握 （4）看護上の問題点の抽出 （5）看護診断をＰＥＳで記入 （6）優先順位の決定
3）看護目標を設定し、対象に応じた看護計画を立案できる。	（1）長期・短期の看護目標の設定 （2）退院支援・家族支援の計画 （3）具体的な看護計画（5Ｗ1Ｈ） （4）対象の状況に応じた計画 （5）根拠にもとづく計画
4）残存機能の維持・機能回復にむけた日常生活活動への援助ができる。	（1）「できるＡＤＬ」の日常生活への応用と習慣化 （2）セルフケア能力へのアプローチ ①代行 ②注意と関心への刺激 ③選択権・意思決定 （3）回復に伴う生活行動拡大に合わせた日常生活活動への援助 ①環境調整：安全、安楽、自立 ②活動・休息バランス：エネルギー配分 ③食事の援助：エネルギー保持 ④更衣動作・清潔動作・排泄動作・移動動作 ⑤生活リズムを整える ⑥レクリエーション：いきる意欲、持てる力の活用 （4）心身の機能低下への予防的援助 （5）廃用症候群の予防

	（6）ＡＤＬとＱＯＬの改善 （7）事故防止
5）病院から在宅移行に向けて必要な看護ができる。	（1）対象の権利を擁護 （2）自己決定や価値観の尊重 （3）在宅移行支援を支えるチームケア （4）看護の専門領域の実践 （5）退院調整 （6）家族支援
6）実施した看護の援助・結果が記述できる。	（1）事実に基づいた正確な記録 （2）対象を中心とした視点 （3）専門用語の活用 （4）看護援助の事実 （5）対象の反応（結果）
7）結果を評価し、評価に基づいて計画の追加・修正ができる。	（1）結果の分析・解釈 （2）看護目標の達成状況結果を評価 （3）学生の行為を省察 （4）目標・計画の追加・修正
３．チーム医療における看護師の役割と連携が理解できる。 1）対象に必要な社会資源について記述できる。	（1）社会保障制度 （2）地域包括ケアシステム （3）地方自治体の総合事業
2）多職種との連携・共有・再検討に参加し、対象を中心とした協働の在り方について記述できる。	（1）福祉・医療関係者の専門性と相互尊重 （2）在宅移行支援を支えるチームケア （3）リハビリカンファレンス、栄養サポートチームへの参加
3）地域包括ケアシステムにおける看護の機能・役割を記述できる。	（1）地域包括ケアの推進 （2）看護の専門領域

４．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。	
１）主体的に取り組むことができる。	（１）計画的な取り組み （２）提出物の期限 （３）事前学習への前向きに取り組み （４）追加学習・文献の活用 （５）疑問点への積極的な探究 （６）主体的な実習計画の立案 （７）学習記録内容の修正・追加
２）相手を尊重した態度がとれる。	（１）礼儀正しい言葉遣い （２）学生らしい身だしなみ （３）情緒の安定性 （４）良好な人間関係 （５）グループダイナミクスの活用
３）責任を持って行動ができる。	（１）報告・連絡・相談 （２）施設との約束の遵守 （３）守秘義務が遵守 （４）実習の留意事項の遵守 （５）実習記録の取り扱い遵守 （６）事故の回避と対応 （７）時間厳守 （８）出欠席の報告義務
４）遅刻・欠席・早退しない。	（１）無遅刻・無欠席 （２）自己の健康管理 （３）早期受診と報告の義務 （４）学習環境の調整 （５）感染予防対策の遵守
５）実習を振り返り、看護に対する思いや考えを記述できる。	（１）自己の振り返り （２）自己の看護観の言語化 （３）今後の課題の明確化

〔　日程スケジュール　〕

	月	火	水	木	金
1週目		直前オリエンテーション	病棟	病棟	病棟
2週目	病棟	病棟	病棟 合同カンファレンス	病棟	病棟
3週目	病棟	病棟	病棟 合同カンファレンス		

〔　事前課題　〕

1．成人期・老年期の理解

1）成人期・老年期の発達課題　（エリクソン・ハヴィガースト・ペッグ）

2）成人期・老年期の身体的・精神的・社会的特徴

2．成人・老年看護学実習Ⅳで活用できる概念

1）自己効力感、エンパワメント、ストレングス、セルフケア、ユマニチュード、パーソンセンタードケア、エンドオブライフケア

2）スティグマ、エイジズム、権利擁護、身体拘束

3）地域包括ケアシステム、介護保険制度、自治体総合事業、在宅移行支援

3．主な疾患と治療、看護

1）認知症

2）脳梗塞

3）大腿骨頸部骨折

4）パーキンソン症候群

5）主な症候・障害

①廃用性症候群

②便秘

③脱水症

④低栄養

⑤掻痒症

⑥摂食障害

４．日常機能を整える看護

１）基本的なＡＤＬ評価（ＢＩ、ＦＩＭ、日常生活自立度判定）

２）認知症評価（MMＳＥ，ＨＤＳ－Ｒ）

３）日常生活を支える援助技術

①基本的活動　②食事・食生活　③清潔・衣生活　④排泄

⑤生活リズム　⑥コミュニケーション　⑦社会参加

４）リハビリテーション看護

５．多職種連携実践（ＩＰＷ）の基礎知識

１）リハビリテーション看護の実践の場の理解

①回復期リハビリテーション病棟

②地域包括ケア病棟

２）回復期リハビリテーションと生活期リハビリテーションの看護

３）リハビリテーションチームにかかわる専門職の理解

４）リハビリテーションチームにおける看護師の役割

〔　実習記録　〕

１．受け持ち患者記録

１）基本情報（１号紙－①）

２）データベース（１号紙－②）

３）情報の整理、解釈・統合（２号紙－①～③）

４）情報関連図（３号紙）

５）看護診断リスト（４号紙）

６）看護計画立案・評価（５号紙－①～②）

７）援助計画（６号紙－①～②）

２．評価表

３．技術経験録

４．レポート「成人・老年看護学実習Ⅳを終えての学びと課題」

400 字詰め原稿用紙　800～1200 字以内（文末に文字数を入れる）

〔　実習評価　〕

成人・老年看護学実習Ⅳの評価基準に基づいて評価

小児看護学実習　　【２単位　90 時間】

〔　目　的　〕

小児期にある対象とその家族を理解し、健康段階に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。

〔　目　標　〕

１．乳幼児期の成長発達に応じた援助が理解できる。
２．学童期の成長発達に応じた関わりが理解できる。
３．小児とその家族とのコミュニケーションがとれる。
４．健康障害をもつ小児とその家族への看護を展開できる。
５．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

〔　行動目標・内容　〕

	行　動　目　標	内　容
保育園・公園	１．乳幼児期の成長発達に応じた援助が理解できる。 １）乳幼児期の成長発達の特徴を記述できる。	（１）形態的成長 （２）感覚・運動機能 （３）知的機能 （４）コミュニケーション機能 （５）情緒機能 （６）社会的機能
	２）乳幼児の基本的生活習慣の確立に向けた援助の実際を記述できる。	（１）基本的生活習慣の自立と援助方法 ①食事－食事環境、食事介助、食事習慣の自立 ②睡眠－睡眠状況の観察、午睡環境、睡眠習慣の自立 ③排泄－オムツ交換、ﾄｲﾚｯﾄﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ、排泄習慣の自立 ④衣服－衣服の選択･調節、着脱の自立 ⑤清潔－歯磨き、うがい、手洗い、洗面、清潔習慣の自立 （２）発達段階に応じたコミュニケーション方法

保育園・公園	3）乳幼児の安全な環境と健康管理の実際を記述できる。 4）乳幼児の遊ぶ環境について考察したことを記述できる。	（1）安全対策 ①構造・設備 ②職員構成・役割 ③事故防止対策・安全教育 （2）健康管理 ①健康状態の把握と対処方法 ②健康診断の内容・方法 ③連絡帳の活用方法 ④保護者との関わり方 （1）園庭・公園の環境 （2）使用している玩具 （3）遊具と遊び方 （4）安全対策
小学校	2．学童期の成長発達に応じた関わりが理解できる。 1）学童期の成長発達の特徴を記述できる。 2）児童の学校生活の状況について記述できる。 3）小学校における健康管理を記述できる。	（1）形態的成長 （2）感覚・運動機能 （3）知的機能 （4）情緒機能 （5）社会的機能 （1）学校管理 （2）教職員の役割 （3）保護者との関わり （4）生活時程の把握 （5）活動の実際 （1）健康状態の把握 （2）健康診断の対応 （3）保健室での子どもへの対応 （4）疾患をもつ子どもへの対応 （5）健康教育の実際
病棟・外来	3．小児とその家族とのコミュニケーションがとれる。 1）小児の成長発達に合わせたコミュニケーションがとれる。 2）小児と家族の心理をふまえた、コミュニケーションの実際を記述できる。	（1）成長発達に合わせた接し方 （2）小児を尊重した態度と対応 （1）小児と家族の心理状態の把握 （2）小児とその家族への看護師・医師など医療従事者の関わり

病棟・外来	4．健康障害をもつ小児とその家族への看護を展開できる。 1）小児とその家族の看護に必要な情報収集ができる。	（1）疾患の経過・症状・治療・受け止め方・家族の状況・教育方針 （2）成長発達状況 （3）日常生活と基本的生活習慣の自立
	2）情報の分析・解釈をし、看護上の問題を明確にできる。	（1）健康障害と成長発達をふまえた分析・解釈 （2）看護上の問題の明確化
	3）看護目標を設定し、小児の健康状態と成長発達に合わせた看護計画を立案できる。	（1）看護目標の設定 （2）看護計画立案 （3）実施方法の立案
	4）小児の健康状態と成長発達に合わせた看護ができる。	（1）日常生活援助 ①環境－ベッドの種類とリネン、温度・湿度・照明、年齢に応じた私物管理 ②食事－食事内容（栄養・量）、食事介助、食事習慣自立への援助 ③睡眠－睡眠状態の観察、午睡の準備、環境の整え方、睡眠を促す方法 ④排泄－排泄の観察、オムツ交換、ﾄｲﾚｯﾄﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ、排泄習慣自立への援助 ⑤衣服の着脱－衣服の選択・調節、着脱自立への援助 ⑥清潔－手洗い、歯磨き、うがい、洗面、清拭、洗髪、入浴、足浴、清潔習慣自立への援助 ⑦遊び・学習－発達段階、患児の状態に応じた遊びと学習 （2）診療の補助技術 ①身体計測 ②バイタルサイン測定 ③与薬 ④検査・処置 （3）小児とその家族に必要な指導 （4）プレパレーション （5）ディストラクション （6）小児に合わせた事故防止・感染予防 （7）小児の権利擁護
	5）小児とその家族に必要な診療介助・検査・処置を記述できる。	（1）診察介助の方法 （2）検査・処置の援助方法 （3）小児と家族への関わり （4）多職種との連携

	6）看護計画の評価ができる。	（1）看護計画の評価 （2）援助の振り返り
全施設	5．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。 1）主体的に取り組むことができる。	（1）計画的な取り組み （2）提出物の期限 （3）事前学習への前向きに取り組み （4）追加学習・文献の文献 （5）疑問点への積極的な探求 （6）主体的な学習計画の立案 （7）学習記録内容の修正・追加
	2）相手を尊重した態度がとれる。	（1）礼儀正しい言葉遣い （2）学生らしい身だしなみ （3）情緒の安定性 （4）良好な人間関係 （5）グループダイナミクスの活用
	3）責任をもって行動ができる。	（1）報告・連絡・相談 （2）施設との約束の順守 （3）守秘義務の遵守 （4）実習の留意事項の遵守 （5）実習記録の取り扱い遵守 （6）事故の回避と対応 （7）時間厳守 （8）出欠席の報告義務
	4）遅刻・欠席・早退をしない。	（1）無遅刻・無欠席 （2）自己の健康管理 （3）早期受診と報告の義務 （4）学習環境の調整 （5）感染予防対策の遵守
	5）実習を振り返り、看護に対する思いや考えを記述できる。	（1）自己の振り返り （2）自己の看護観の言語化 （3）今後の課題の明確化

〔　日程スケジュール　〕

	月	火	水	木	金
1週目		直前オリエンテーション	保育園	保育園	保育園
2週目	小児病棟	小児病棟	小児病棟	小児病棟	小児病棟
	※　病棟実習中に受持ち患者の状況で外来実習を行う				
3週目	公　園	小学校	小学校		

〔　事前課題　〕

１．小児各期の成長発達

２．気管支喘息の病態生理・治療・看護

３．肺炎の病態生理・治療・看護

４．症状に対する看護（発熱・呼吸困難・けいれん）

５．小児外来の特徴・看護師の役割

６．予防接種

７．手順書

１）バイタルサイン（発達別の正常値も含む）

２）与薬（内服・坐薬）

３）吸引（口腔・鼻腔）

４）酸素療法

５）日常生活援助技術（環境整備・シーツ交換・食事介助・授乳・おむつ交換・全身清拭・シャワー浴・歯磨き）

〔　実習記録　〕

＜全体＞

１．レポート「小児看護学実習を終えての学びと課題」

400 字詰め原稿用紙　800～1200 字以内（文末に文字数を入れる）

２．評価表

３．技術経験録

＜保育園・公園＞

１．保育園実習記録－１・２

＜小学校＞

１．小学校実習記録－１・２

＜病棟＞

１．基礎情報…１号紙（小児）

２．情報の整理、解釈・総合…２号紙（小児）－①～⑧

３．看護診断リスト…４号紙（小児）

４．看護計画立案・評価…５号紙（小児）－①～②

５．援助計画…６号紙（小児）－①～②

＜外来＞

１．外来実習記録－１・２

〔　実習評価　〕

小児看護学実習評価基準に基づいて評価

母性看護学実習　【２単位　90 時間】

〔　目　的　〕

妊産褥婦及び胎児・新生児とその家族を理解し、対象に必要な看護が実践できるような基礎的能力を養う。

〔　目　標　〕

１．１人の女性が妊娠期・分娩期・産褥期の経過を辿ることで起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、その変化に合わせた看護の展開ができる。

２．外来で母児と家族に提供された看護について理解できる。

３．産前産後の母児が健やかに過ごすために用意されているシステムと関連施設の連携について理解できる。

４．母児とその家族との関わりから命の尊厳について自分の考えを説明することができる。

５．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

〔　行動目標・内容　〕

	行　動　目　標	内　　容
病棟	１．１人の女性が妊娠期・分娩期・産褥期の経過を辿ることで対象に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、その変化に合わせた看護の展開ができる。	
	１）妊娠期・分娩期・産褥期にある対象と状態に合わせたコミュニケーションがとれる。	（１）接近的コミュニケーション
	２）妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の非妊時と妊娠後・分娩後の生活を捉え、その情報収集できる。	（１）妊娠各期の情報 ①非妊時の健康 ②妊婦及び胎児の健康 ③妊婦の日常生活 ④妊婦の心理的適応と対処 ⑤妊婦の周囲の人々との関係と援助 （２）分娩各期の情報 ①分娩進行状況 ②分娩進行に伴う全身状態 ③分娩進行に伴う産婦の心理および欲求 ④分娩進行に伴う産婦自身の対処行動 ⑤産婦と周囲の人々との関係と援助 ⑥産婦の生活の場および環境

病 棟		（３）新生児期の情報 ①出生直後の評価 ②胎外生活への適応 ③身体の観察所見 ④新生児の身体機能 ⑤栄養と栄養摂取 ⑥神経学的所見 （４）産褥期の情報 ①非妊時から妊娠・分娩までの健康 ②復古状態 ③全身状態 ④母乳育児 ⑤生活行動 ⑥心理的適応 ⑦褥婦と周囲の人々との関係と援助
	３）妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の情報を母児一体で分析・解釈し、健康課題を抽出できる。	（１）妊娠期各期の情報の分析 （２）分娩期各期の情報の分析 （３）産褥期の情報の分析 （４）胎児期・新生児期の情報の分析 （５）母児間の影響 （６）家族との関連 （７）健康課題の明確化 （８）ウェルネスの表現
	４）妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の健康を維持・増進する看護目標の設定と計画が立案できる。	（１）看護目標の設定 （２）母児の状況に合わせた看護計画立案 ①妊娠各期の妊婦健康診査と妊婦指導 ②分娩各期の母児の健康管理と分娩促進 ③新生児期の胎外生活適応と生理的変化 ④産褥期の健康診査と保健指導 ⑤母児愛着形成の促進 ⑥家族の愛着形成の促進
	５）妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の看護ができる。	（１）妊娠維持のための母児の健康管理 ①治療内容 ②ＮＳＴ ③妊婦健康診査 （２）分娩時の母児の健康管理 ①分娩進行状況 ②体力保持への援助 ③母児早期接触 ④家族への対応 ⑤倫理的配慮 （３）新生児健康管理 ①バイタルサイン測定 ②栄養 ③清潔 ④環境調整

病 棟		⑤新生児期に行われる検査と与薬 （４）産褥健康管理 ①退行性変化 ②進行性変化 ③母児愛着形成 ④バースレビュー ⑤家族への対応 （５）妊娠期・産褥期・新生児期の保健指導 （６）学生が計画した保健指導の実施
	６）実施した看護を評価し、追加・修正することができる。	（１）看護目標の評価 （２）看護の追加・修正
外 来	２．外来で母児と家族に提供された看護について理解できる。 １）妊娠各期の妊婦健康診査の必要性を母児の観点から記述できる。	（１）妊婦健康診査内容 （２）妊婦の言動 （３）胎児の発育状況 （４）妊婦の日常生活とマイナートラブル （５）妊婦指導 （６）家族の状況
	２）産褥１か月健康診査の必要性を母児の観点から記述できる。	（１）産褥健康診査内容 （２）褥婦の言動 （３）褥婦の日常生活 （４）褥婦指導 （５）家族の状況
地 域	３．母児と家族を支える地域システムについて理解できる。 １）保健福祉センター・地域子ども家庭センターの役割が記述できる。	（１）八王子版ネウボラ （２）地域における子育て環境 （３）出産・育児に関する経済的支援 （４）妊娠・出産包括支援事業 （５）健やか親子 21 （６）第４次男女共同参画基本計画 （７）法律と母子保健施策の実際 （８）産後うつ予防 （９）虐待予防 (10) その他
	２）保健福祉センター・地域子ども家庭センターと医療施設との連携が記述できる。	（１）妊婦・産婦・褥婦・新生児または家族の情報提供 （２）健康支援機関 ①病院・産院 ②子育て世代包括支援センター ③女性の健康支援事業 ④男女共同参画センター

地域		（３）母性看護に関わる職種 ①保健師 ②助産師 ③看護師 ④その他
	３）地域のシステムと医療施設の連携を通して、母児とその家族の健康支援の必要性を記述できる。	（１）新しい家族システムの構築 （２）地域に暮らす母児とその家族の健康 （３）社会資源の情報提供
全施設	４．母児とその家族との関わりから生命の尊厳について自分の考えを述べることができる。 １）妊娠期から産褥期までの期間に行われた看護を通して、母児一体の看護の必要性を記述できる。	（１）親準備性・親性 （２）母児の接触 （３）母児相互作用 （４）母児愛着形成 （５）絆の形成 （６）新しい家族の調整
	２）他者及び自己の命の尊さについての考えを記述できる。	（１）新しい命の誕生 （２）他者の存在価値 （３）自己の存在価値 （４）生命倫理
	５．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。 １）主体的に取り組むことができる。	（１）計画的な取り組み （２）提出物の期限の厳守 （３）事前学習への取り組み （４）追加学習・文献の活用 （５）疑問点への積極的な探求 （６）主体的な実習計画の立案 （７）学習記録内容の修正・追加
	２）相手を尊重した態度がとれる。	（１）礼儀正しい言葉遣い （２）学生らしい身だしなみ （３）情緒の安定性 （４）良好な人間関係 （５）グループダイナミクスの活用
	３）責任をもって行動ができる。	（１）報告・連絡・相談 （２）施設との約束の順守 （３）守秘義務の遵守 （４）実習の留意事項の遵守 （５）実習記録の取り扱い遵守 （６）事故の回避と対応 （７）時間厳守 （８）出欠席の報告義務

全施設	４）遅刻・欠席・早退をしない。	（１）無遅刻・無欠席 （２）自己の健康管理 （３）早期受診と報告の義務 （４）学習環境の調整 （５）感染予防対策の遵守
	５）実習を振り返り、看護に対する思いや考えを記述できる。	（１）自己の振り返り （２）自己の看護観の言語化 （３）今後の課題の明確化

〔　日程スケジュール　〕

	月	火	水	木	金
1週目		直前オリエンテーション	地域子ども家庭支援センター館・みなみ野	保健福祉センター	学びの統合
2週目	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
3週目	病棟	病棟	病棟		

※病棟実習全８日間のうち、産褥期実習 5 日程度、分娩期実習 1~2 日程度、外来実習 1~2 日程度とする。

〔　事前課題　〕

１．母性看護学実習の妊娠期の課題

１）妊娠の経過と胎児の発育

２）妊娠期におけるマイナートラブルとその対処方法

３）妊婦健診とその項目

４）妊娠時期別の妊婦指導とその内容

２．母性看護学実習の分娩期の課題

１）分娩経過と分娩の３要素

２）分娩期の看護（産痛緩和法、分娩促進のケア、精神的ケア）

３）胎児心拍数モニタリングの読み方（Reassuring Fetal Status の判断・徐脈の種類と定義）

４）ビショップスコア／フリードマン曲線

５）アプガースコア

３．母性看護学実習の産褥期の課題

１）進行性変化・退行性変化と看護

２）ルヴァ・ルービンの母親への適応過程

３）母乳栄養のメリットとデメリット

４）乳房の形による飲ませやすい抱き方

５）正しい授乳方法と児の飲めているサイン

６）帝王切開術前後の看護

７）産褥経過のチェックリスト作成（全身観察項目含む）

４．母性看護学実習の新生児期の課題

１）新生児の生理

（１）循環動態の変化

（２）胎児呼吸から肺呼吸への移行

（３）第一啼泣の機序

（４）応形機能

（５）生理的黄疸と高ビリルビン血症

（６）生理的体重減少

２）新生児のバイタルサインの正常値と新生児の意識レベル

３）新生児経過のチェックリスト作成(全身観察項目含む)

４）原始反射の種類と消失時期

５）熱の喪失経路と適切な保育環境

６）先天性代謝異常検査

７）ビタミンK_2シロップと投与方法

５．地域母子保健

１）保健福祉センターの概要

２）地域子ども家庭センターと子育て広場の概要

６．手順書の作成

１）妊娠期の子宮底長測定

２）腹囲測定

３）レオポルド触診法

４）ＮＳＴ（又は分娩監視装置）の装着方法

５）産褥期の子宮底高測定・外陰部・肛門部の観察

６）乳房観察方法

７）新生児のバイタルサイン測定（呼吸、心拍、体温）

８）沐浴（更衣、おむつ交換含む）

〔　実習記録　〕

１．実習前

　１）臨地実習学習カード

２．実習後

　１）臨地実習学習カード

　２）レポート「母性看護学実習を終えての学びと課題」

　　400 字詰め原稿用紙　800～1200 字以内　（文末に文字数を入れる）

　３）評価表

　４）技術経験録

３．産科外来実習

　１．援助・見学計画…６号紙－①～②

４．分娩期実習

　１）妊娠期・分娩期経過…１号紙（母性）

　２）援助・見学計画…６号紙－①～②（事前に記入しておく）

５．産褥期実習

　１）妊娠期・分娩期経過…１号紙（母性）

　２）情報の整理、解釈、健康課題の抽出…２号紙

　３）看護計画立案・評価…５号紙（退行性変化、進行性変化、母子愛着形成、新生児）

　４）援助・見学計画…６号紙－①～②

　５）フローシート（母性）

　６）産褥指導案（指導時媒体使用者は媒体のコピーも含む）（母性）

６．地域実習

　１）保健福祉センター実習記録

　２）地域子ども家庭支援センター・子育てひろば実習記録

〔　留意事項　〕

１．実習期間中の記録提出においては受け持ち３日目までに記録用紙１、２、５号紙を仕上げ教員に提出する。

２．対象の状況により実習内容に変更が生じる場合がある。

〔　実習評価　〕

母性看護学実習評価基準に基づいて評価する

精神看護学実習　【２単位　90 時間】

〔　目　的　〕

精神障害をもつ対象を理解し地域で生活していくために必要な看護が実践できる基礎的能力を養う。

〔　目　標　〕

１.精神に機能障害をもつ対象の治療環境が理解できる。
２.自己洞察し、対象の状態に応じたコミュニケーションをとることができる。
３.精神障がい者が地域で生活を営むためのセルフケア能力を捉え、個別性を考えて退院に向けた看護展開ができる。
４.チーム医療における看護師の役割及び連携について理解できる。
５.地域で生活している精神に健康問題を持つ人の生活支援の現状と看護の役割について理解できる。
６.看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

〔　行動目標・内容　〕

行　動　目　標	内　　容
１．　精神に機能障害をもつ対象の治療環境が理解できる。	
１）入院環境について記述できる。	（１）病院の概要 （２）治療の場、生活の場としての病棟 （３）病棟設備とその安全管理 （４）入院形態・処遇・行動制限・代理行為 （５）鍵の管理 （６）隔離・拘束 （７）看護方針・看護方式・記録
２．　自己洞察し、対象の状態に応じたコミュニケーションをとることができる。	
１）対象の言動の意味を理解し記述できる。	（１）表情・言動とその意味 （２）ありのままに受け止める （３）対象のコミュニケーションの特徴
２)自己の傾向に気づき意図的コミュニケーションが実施できる。	（１）自己の傾向を踏まえた、個別性のあるコミュニケーション （２）意図的コミュニケーションの意味を理解 （３）治療的環境としての医療者の態度が対象に及ぼす影響
３)自己の感情や考えを客観的に表現し分析することで､対象に与える影響を理解し記述できる。	（１）プロセスレコードを用いて看護場面の振り返り （２）プロセスレコードを用いて自己の傾向を知る （３）その傾向に至った背景を知る

４）対象－学生関係を再考察し、自己の感情、行動傾向を記述できる。	（１）看護者の言動とその影響 （２）自己の感情への気づき （３）精神科看護におけるコミュニケーション技術（共感的理解・無条件の肯定的関心・自己一致） （４）関係発達過程 ①関係を持ち始める時期 ②持ちつづける時期 ③関係の終結 （５）行為のなかのリフレクション （６）行為についてのリフレクション
３．精神障がい者が地域で生活を営むためのセルフケア能力を捉え、個別性を考えて退院に向けた看護展開ができる。	
１）対象の背景と病態像を把握し、精神症状と治療方針の情報を収集できる。	（１）対象の生育歴 （２）発達段階（発病時・現在） （３）病態生理と精神症状 （４）家族関係・キーパーソン （５）薬物治療 （６）精神療法 （７）作業療法 （８）レクリエーション （９）社会生活技能訓練（ＳＳＴ） (10) 身だしなみ（服装、調髪、髭剃り、化粧） (11) 身体の清潔（入浴、洗面、歯磨き） (12) 食事 (13) 排泄 (14) 睡眠と休息活動 (15) 居室、ベッドの整理整頓
２）情報を分析・解釈し看護上の問題を明確にできる。	（１）服薬の管理方法 （２）責任範囲 （３）日中活動 （４）私物の管理（日用品の自己管理を含む）
３）対象に応じた看護計画が立案できる。	（１）長期・短期目標の設定 （２）自己決定の再獲得に向けた援助 （３）強みを生かした援助 （４）対象の薬物療法への想いを傾聴し、継続服薬の知識を深められる援助 （５）症状変化のきっかけを振り返る援助 （６）疾患や症状の知識を深める援助
４）立案した看護計画を実施できる。	（１）実施前の計画の見直し （２）臨床判断し実施 （３）計画に沿った根拠

５）対象の反応を捉えて援助を評価し、追加修正ができる。	（１）個別性のある基礎看護技術 （２）対人関係・コミュニケーション能力 （３）実施した援助の評価 （４）リフレクション後の評価の修正 （５）修正後、再実施
４．チーム医療における看護師の役割及び連携について理解できる。	
１）対象に関わる専門職の役割を理解し、記述できる。	（１）精神科領域における保健医療福祉チームとその役割と連携 ①医師　②精神保健福祉士 ③臨床心理士　④理学療法士 ⑤作業療法士　⑥その他
２）多職種連携での看護師の役割を理解し記述できる。	（１）カンファレンス （２）面談 （３）退院支援
３）地域生活への移行に必要な社会資源を理解し活用方法を記述できる。	（１）退院に向け個別性に応じた社会資源 （２）地域生活への移行支援
５．地域で生活している精神に健康課題を持つ人の生活の現状を捉え、支援内容について理解できる。	
１）サポートシステムとしての施設の位置づけ・役割について記述できる。	（１）地域包括ケアシステム （２）就労継続支援事業Ａ・Ｂ型の特徴 （３）自立訓練の特徴
２）利用者やスタッフとの関りを通して、利用者の生活状況や背景を記述できる。	（１）継続医療・薬の管理状況 （２）家族や周囲との関係 （３）健康的な側面 （４）社会復帰施設（法的根拠） （５）障害者年金・生活保護・通院医療費助成 （６）社会生活の状況 （生活のしづらさ・日々の楽しみ） （７）作業活動の状況
６．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。	
１）主体的に取り組むことができる。	（１）計画的な取り組み （２）提出物の期限の厳守 （３）事前学習への取り組み （４）追加学習・文献の活用 （５）疑問点の積極的な探究 （６）主体的な実習計画の立案 （７）学習記録内容の修正・追加

２）相手を尊重した態度がとれる。	（１）礼儀正しい言葉遣い （２）学生らしい身だしなみ （３）情緒の安定性 （４）良好な人間関係 （５）グループダイナミクスの活用
３）責任を持って行動ができる。	（１）報告・連絡・相談 （２）施設との約束の遵守 （３）守秘義務の遵守 （４）実習の留意事項の遵守 （５）実習記録の取り扱い遵守 （６）事故の回避と対応 （７）時間厳守 （８）出欠席の報告義務
４）遅刻・欠席・早退しない。	（１）無遅刻・無欠席 （２）自己の健康管理 （３）早期受診と報告の義務 （４）学習環境の調整 （５）感染予防対策の遵守
５）実習を振り返り、看護に対する思いや考えを記述できる。	（１）実習の振り返り （２）自己の看護観の言語化 （３）今後の課題の明確化

〔　日程スケジュール　〕

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1週目</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">学内オリエンテーション</td><td>精神科病棟</td><td>精神科病棟</td><td rowspan="2">精神科病棟</td></tr>
<tr><td>就労継続支援事業所</td><td>就労継続支援事業所</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2週目</td><td>就労継続支援事業所</td><td>就労継続支援事業所</td><td rowspan="2">精神科病棟</td><td rowspan="2">精神科病棟</td><td rowspan="2">精神科病棟</td></tr>
<tr><td>精神科病棟</td><td>精神科病棟</td></tr>
<tr><td>3週目</td><td>精神科病棟</td><td>精神科病棟</td><td>精神科病棟</td><td></td><td></td></tr>
</table>

〔　事前課題　〕

１．代表的な疾患とその看護
　　統合失調症、双極性感情(気分)障がい、アルコール依存症（身体合併症を含む)、
　　うつ病、発達障がい、パーソナリティー障がい、身体症状症および関連症群
２．特徴的な精神症状
３．治療と看護者の役割
　１）薬物療法：抗精神病薬（特にクロザピン）・向精神薬の作用、副作用、
　　睡眠薬・下剤の作用機序・作用時間
　２）作業療法
　３）精神療法
　４）隔離、拘束、行動制限
　５）修正型電気けいれん療法を受ける対象の看護・その際に使用される麻酔薬、
　　筋弛緩薬、看護師の役割
　６）ＳＳＴ
　７）メタ認知療法
４．入院形態・処遇・社会資源（グループホーム、生活訓練施設、障害福祉サービス）
　　精神保健福祉法、障害者総合支援法、後見制度、医療観察制度
５．他職種の名称と役割
６．その他:家族教室、フォーカスチャーティング、アドヒアランス、コンコーダンス
　　リカバリー、地域包括ケアシステム
７.精神科看護師としてのコミュニケーション技法
　１）関係構築に必要なコミュニケーション
　２）幻聴・妄想のある人のコミュニケーション
　３）病識の乏しい人のコミュニケーション
　４）その他　コミュニケーション
　５）ＣＶＰＰＰ
８．２年次に作成したプロセスレコードの修正

〔　実習記録　〕

１．臨地実習学習カード

２．受け持ち患者記録

　１）基礎情報（１号紙-①）

　２）データベース（１号紙-②）

　３）情報の整理、解釈・統合（２号紙－①～③）

　４）情報関連図（３号紙）

　５）看護診断リスト（４号紙）

　６）看護計画立案・評価　（５号紙－①～②）

　７）援助計画（６号紙－①～②）

３．プロセスレコード　　２例　以上

４．就労継続支援事業所　見学実習記録　まとめの記録

５．レポート「精神看護学実習を終えての学びと課題」

　　400 字詰め原稿用紙　800～1200 字以内　（文末に文字数を入れる）

６．評価表

７．技術経験録

〔　実習評価　〕

精神看護学実習評価基準に基づいて評価

統合実習　【２単位　90 時間】

〔　目　的　〕

チームの一員として看護が実践できる基礎的能力を養う。

〔　目　標　〕

１．看護チームのリーダー・メンバーの役割を理解できる。
２．看護管理について理解できる。
３．チームメンバーと協働し、複数受け持ちの個別性を考えて看護が実践できる。
４．夜間における看護の実際が理解できる。
５．実習を通して、専門職としての自己の課題を明確にできる。
６．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

〔　行動目標　・　内容　〕

行 動 目 標	内　　容
１．看護チームのリーダー・メンバーの役割を理解できる。 １）チームリーダーの役割を記述できる。	（１）リーダーの役割と業務の実際 （２）医師への報告・連絡調整 （３）チーム及びスタッフへの連絡調整 （４）他部門との連携 （５）情報共有
２）チームメンバーの役割を記述できる。	（１）メンバーの役割と業務の実際 （２）受け持ち患者の情報収集 （３）援助の必要性や優先順位 （４）援助の時間配分、援助の調整方法 （５）業務計画の立案、実施の見学
２．看護管理について理解できる １）病棟の管理体制について記述できる	（１）病棟の管理体制と管理者の役割 （２）看護組織・看護理念・看護方式 （３）スタッフの教育指導 （４）安全管理・物品管理 （５）他部門との連絡調整
３．チームメンバーと協働し、複数受け持ちの個別性を考えて看護が実践できる。 １）対象にあわせて意図的にコミュニケーションがとれる。	（１）個別性にあわせてコミュニケーション （２）意図的なコミュニケーション

2）必要な情報が記述できる。	（1）病理的状態 （2）日常生活の状況 （3）実施されている治療・処置 （4）実施されている看護 （5）社会的状況
3）必要な看護計画が立案できる。	（1）看護問題 （2）看護計画
4）優先順位や時間配分を考え、1日の行動計画が立案できる。	（1）多重課題 （2）優先順位の判断 （3）援助の時間配分 （4）予定されている検査・処置の時間の確認と援助実施の調整
5）必要な看護をタイムマネジメントし状態に合わせた看護が実施できる。	（1）効果的な時間管理での実施 （2）日常生活の援助 （3）安全・安楽な援助の実施
6）看護計画の評価・修正ができる。	（1）看護計画の評価 （2）看護計画の修正
7）実施した看護を評価し再度実施できる。	（1）実施した看護の評価 （2）修正後の実施
8）医療チームの一員として積極的に参加し看護が実践できる。	（1）メンバーと積極的なコミュニケーション （2）病棟の流れを把握し、チームの一員としての看護の実施 （3）学生メンバーと協働 （4）病棟チームと協働
4．夜間における看護の実際が理解できる。 1）夜間における療養環境を記述できる。	（1）夜間帯における療養環境 （2）夜間に特有な安全への配慮 （3）夜間に特有な対応の方法
2）夜間に必要な看護が記述できる。	（1）夜間帯における主な看護業務と優先度 （2）夜間の検査、処置 （3）夜間の日常生活援助 ①食事介助 ②イブニングケア ③就寝準備 （4）家族面会時の患者の様子および看護師の家族への関わり
5．実習を通して、専門職としての自己の課題を明確にできる。 1）自己の課題について記述できる。	（1）自己の振り返り （2）チームの一員として自己の課題 （3）多重課題への対応についての課題
2）自己の看護観を明確にして、将来の看護師像が明確に記述できる。	（1）自己の振り返り （2）自己の看護観の明確化 （3）将来の看護師像の明確化 （4）将来の看護師像の課題と目標の明確化

６．看護専門職の一員としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。 １）主体的に取り組むことができる。	（１）計画的な取り組み （２）提出物の期限の厳守 （３）事前学習への取り組み （４）追加学習・文献の活用 （５）疑問点への積極的な探究 （６）主体的な行動計画の立案と修正 （７）学習記録内容の修正・追加
２）相手を尊重した態度がとれる。	（１）礼儀正しい言葉遣い （２）学生らしい身だしなみ （３）情緒の安定性 （４）良好な人間関係 （５）グループダイナミクスの活用
３）責任を持って行動ができる。	（１）報告・連絡・相談 （２）施設との約束の遵守 （３）守秘義務が遵守 （４）実習の留意事項の遵守 （５）実習記録の取り扱い遵守 （６）事故の回避と対応 （７）時間厳守 （８）出欠席の報告義務
４）遅刻・欠席・早退しない。	（１）無遅刻・無欠席 （２）自己の健康管理 （３）早期受診と報告の義務 （４）学習環境の調整 （５）感染予防対策の遵守
５）実習を振り返り、看護に対する思いや考えを記述できる。	（１）自己の振り返り （２）自己の看護観の言語化 （３）今後の課題の明確化

〔　日程スケジュール　〕

	月	火	水	木	金
1週目		直前オリエンテーション（2時間）	病棟オリエンテーション チームメンバー複数の受け持ち患者のメンバーに同行見学	リーダー（同行見学） 病棟管理実習	AM：チームメンバー（同行見学） PM：複数の受け持ち患者の情報・収集・見学・挨拶
2週目	複数の受け持ち患者の情報収集・見学(受け持ち看護師につき援助見学)	複数の受け持ち患者の援助実施(指導看護師と共に実施)	複数の受け持ち患者の援助実施(指導看護師と共に実施)	複数の受け持ち患者の援助実施(指導看護師と共に実施)	夜間実習(13:30～21:30)午後の時間帯は複数の受け持ち患者の援助実施
3週目	複数の受け持ち患者の援助実施(指導看護師と共に実施)	複数の受け持ち患者の援助実施(指導看護師と共に実施)	まとめ 記録の整理		9時記録提出

〔　夜間実習　〕

時　間	学生の動き
13:30	挨拶 情報収集 行動計画調整
14:00	複数の受け持ち患者のバイタルサイン測定 援助の実施
15:00	報告
16:30	申し送り聴取
17:00前後	休憩（1時間）
18:00	配膳･食事介助･下膳･食後薬の与薬など
19:00	バイタルサイン イブニングケア 診療補助技術 就寝前与薬 就寝準備（排泄援助など） } 見学
21:00	消灯
21:30	終了、挨拶、帰宅

〔　留意事項　〕

１．１病棟５～６名の学生配置　７グループ編成　１クール実施

２．指導体制

１）原則１グループに教員１名、巡回指導が基本となるため、病棟スタッフ、実習指導者の指導の下で実施

３．病棟管理実習は、１週目３日間の中で病棟管理者の状況に合わせて実施

４．夜間実習

１）体調の管理を充分して臨む

２）通学時の安全に万全を期す

３）対象の安全を充分に考え、報告・連絡・相談をする

４）治療・援助の見学は前日までに情報を確認し、計画に入れてゆく

５）その他、留意事項は通常の実習に準じる

６）更衣室は 21 時以降施錠をするため、実習終了時に防災センターに鍵を取りに行く

７）更衣終了後は電気・施錠を確認し、鍵を返却する

〔　事前課題　〕

１．成人・老年看護学実習で利用した事前学習の振り返り

２．看護管理

３．看護方式（看護サービス）

４．認定看護師

５．専門看護師

６．看護基準

７．日常生活援助技術

８．チームカンファレンスの目的、方法

９．チームリーダー、チームメンバーの役割

10．多重課題の優先順位　　※「看護管理」内容の復習

11．看護職の責務

〔　実習記録　〕

１．患者記録、実習記録、行動計画調整表、カンファレンス記録

２．評価表

３．技術経験録

４．レポート「統合実習を終えての学びと課題」

400 字詰め原稿用紙　800～1200 字以内（文末に文字数を入れる）

〔　実習評価　〕

統合実習の評価基準に基づいて評価